



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

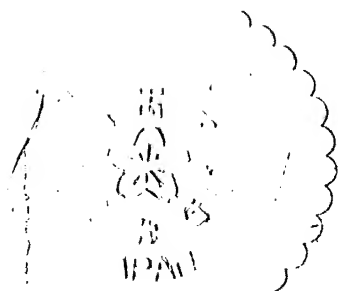
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 3 月 4 日
Date of Application:

出 願 番 号 実 願 2 0 0 3 - 0 0 1 0 7 1
Application Number:
[ST. 10/C] : [J . P 2 0 0 3 - 0 0 1 0 7 1 U]

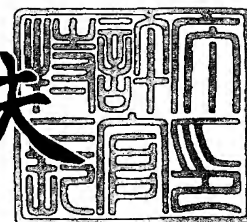
出 願 人 船 井 電 機 株 式 会 社
Applicant(s):



2 0 0 4 年 2 月 2 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫





【書類名】 実用新案登録願

【整理番号】 RU1865

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 5/64

【考案の名称】 DVDプレーヤー装置

【請求項の数】 4

【考案者】

【住所又は居所】 大阪府大東市中垣内7丁目7番1号 船井電機株式会社
内

【氏名】 小林 弘

【実用新案登録出願人】

【識別番号】 000201113

【氏名又は名称】 船井電機株式会社

【代表者】 船井 哲良

【納付年分】 第1年分から第3年分

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 008442

【納付金額】 45,200円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【考案の名称】 DVDプレーヤー装置

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 プレーヤー本体が内部に内蔵された内部筐体がシールド板を兼ねた鉄板で形成され、この内部筐体は、上面板と左右側壁と後壁とからなって前部が開放されていて、この内部筐体は前部が開放されたケース体で覆われていて、このケース体にはテレビジョンの脚部を載せる凹部が前後4箇所に設けられ、前記内部筐体の前部の両側における前記ケース体の内側に、上端が前記ケース体の上壁近傍箇所に位置して上端が塞がれた角柱形状の左右2本の補強体が立設され、前記左右の補強体には、前記ケース体の前部に取り付けられるフロントキャビネットに係入するキャビネット係入取付片がそれぞれ前向きに突設され、前記ケース体の後側の左右の凹部の下面側には、前記内部筐体の上面板と左右側壁に当接して荷重を受けるための下向き突出部が設けられていることを特徴とするDVDプレーヤー装置。

【請求項2】 プレーヤー本体が内部に内蔵された内部筐体がシールド板を兼ねた鉄板で形成され、この内部筐体は、上面板と左右側壁と後壁とからなって前部が開放されていて、この内部筐体は前部が開放されたケース体で覆われていて、このケース体にはテレビジョンの脚部を載せる凹部が前後4箇所に設けられ、前記内部筐体の前部の両側における前記ケース体の内側に左右2本の補強体が立設され、前記ケース体の後側の左右の凹部の下面側には、前記内部筐体の上面板と左右側壁に当接して荷重を受けるための下向き突出部が設けられていることを特徴とするDVDプレーヤー装置。

【請求項3】 前記ケース体の前側の左右の凹部の下面側に、前記内部筐体の左右側壁に当接する下向き補強リブが設けられていることを特徴とする請求項2に記載のDVDプレーヤー装置。

【請求項4】 前記下向き突出部は、左右方向に延びる長円形状に形成され、一端部が楕円形状に形成されて前記前記凹部の下側に位置し、他端部が前記内部筐体の各側壁の上側に位置していることを特徴とする請求項2又は3に記載のDVDプレーヤー装置。

【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、上部にテレビジョンを載置可能なDVDプレーヤー装置に関する。

【0002】**【従来の技術】**

第1の従来技術を図3、図4に示す。テレビジョン受像機101の底面両側に蝶着され、直立位置と折畳み位置に回動可能な一对の第1支持板102と、第1支持板102の蝶着方向と直向する方向に蝶着され、直立位置と折畳み位置の2位置に回動可能な一对の第2支持板105と、直立位置において第2支持板105を第1支持板102に蝶着固定する固定手段とから成り、第1・第2支持板102、105の直立位置において両支持板102、105により構成される空間にVTR108を収納せしめ、折畳み位置において第1支持板102によりテレビジョン受像機101を支持するものである。（例えば、特許文献1参照）。

ところが、これにおいては、第1支持板102と第2支持板が蝶番で取り付けられているので、位置がずれたりすると、両支持板102、105が内側に畳まれてしまい、支持状態が不安定になるときがあるという問題があった。

【0003】

第2の従来技術を図5、図6、図7（a）（b）に示す。樹脂成型された筐体205内に枠体201を嵌合し、筐体内壁の前面部に複数の十字リブ206と、筐体底面と両側面内壁にそれぞれ枠体201の外面と当接する複数のリブを筐体205の前端から後端に向けて一体に形成し、枠体205の十字リブ206と相対向する位置に一方は十字リブ206と嵌合する丸孔を、他方は横方向に裕度を備えた長孔を設け、バックカバー210の両側面内壁に枠体201の外面と当接する複数のリブを背面から開口端に向けて一体に形成し、バックカバー210の底面から背面にかかる内壁に枠体201の外面と当接する側面コ字状の複数のリブを一体に形成し、筐体205にバックカバー210を固着することにより枠体201をリブ群で挟持し、所定の位置に固定するようにしたものである。（例えば、特許文献2参照）。



ところが、これは、テレビジョンの筐体205内に枠体201が嵌め入れられるようにしたものであって、テレビジョンの筐体205を載置するものではなかった。

【0004】**【特許文献1】**

実開昭62-188875号公報

【特許文献2】

特開昭59-202691号公報

【0005】**【考案が解決しようとする課題】**

本考案は、テレビジョンの載置することを前提としたDVDセットを作ることができ、しかもテレビジョンを安定した状態で載置することができるとともに、テレビジョンの重量を無理なく受けることができる頑丈な構造のDVDプレーヤー装置を提供することを目的とする。

【0006】**【課題を解決するための手段】**

本考案は、上記課題を解決するために提案されたものであって、請求項1に記載の考案は、プレーヤー本体が内部に内蔵された内部筐体がシールド板を兼ねた鉄板で形成され、この内部筐体は、上面板と左右側壁と後壁とからなって前部が開放されていて、この内部筐体は前部が開放されたケース体で覆われていて、このケース体にはテレビジョンの脚部を載せる凹部が前後4箇所に設けられ、前記内部筐体の前部の両側における前記ケース体の内側に、上端が前記ケース体の上壁近傍箇所に位置して上端が塞がれた角柱形状の左右2本の補強体が立設され、前記左右の補強体には、前記ケース体の前部に取り付けられるフロントキャビネットに係入するキャビネット係入取付片がそれぞれ前向きに突設され、前記ケース体の後側の左右の凹部の下面側には、前記内部筐体の上面板と左右側壁に当接して荷重を受けるための下向き突出部が設けられていることを特徴としている。

【0007】

請求項2に記載の考案は、プレーヤー本体が内部に内蔵された内部筐体がシー

ルド板を兼ねた鉄板で形成され、この内部筐体は、上面板と左右側壁と後壁とからなって前部が開放されていて、この内部筐体は前部が開放されたケース体で覆われていて、このケース体にはテレビジョンの脚部を載せる凹部が前後4箇所に設けられ、前記内部筐体の前部の両側における前記ケース体の内側に左右2本の補強体が立設され、前記ケース体の後側の左右の凹部の下面側には、前記内部筐体の上面板と左右側壁に当接して荷重を受けるための下向き突出部が設けられていることを特徴としている。

【0008】

請求項3に記載の考案は、前記ケース体の前側の左右の凹部の下面側に、前記内部筐体の左右側壁に当接する下向き補強リブが設けられていることを特徴としている。

請求項4に記載の考案は、前記下向き突出部は、左右方向に延びる長円形状に形成され、一端部が楕円形状に形成されて前記前記凹部の下側に位置し、他端部が前記内部筐体の各側壁の上側に位置していることを特徴としている。

【0009】

【考案の実施の形態】

以下、本考案に係るDVDプレーヤー装置の実施の形態について、図を参照しつつ説明する。

図1は本実施形態のDVDプレーヤー装置を示し、(a)はその平面図、(b)はその正面図、図2は同装置の側面図である。

【0010】

本実施形態のDVDプレーヤー装置は、図1(a)(b)、図2に示すように、プレーヤー本体1が内部に内蔵された内部筐体2がシールド板を兼ねた鉄板で形成され、この内部筐体2は、上面板3と左右側壁4、5と後壁6とからなって前部が開放されていて、この内部筐体2は前部が開放されたケース体7で覆われていて、このケース体7にはその上壁8にテレビジョンの脚部(図示略)を載せる略球面状の凹部9、10が前後4箇所に設けられ、内部筐体2の前部の両側におけるケース体7の内側に、上端がケース体7の上壁近傍箇所に位置して上端が塞がれた角柱形状の左右2本の補強体11、12が立設されている。

【0011】

そして、左右の補強体 11、12 には、ケース体 7 の前部に取り付けられるフロントキャビネット 13 に係入するキャビネット係入取付片 11a、12a がそれぞれ前向きに突設され、ケース本体 7 の後側の左右の凹部 9、9 の下面側には、内部筐体 2 の上面板 3 と左右側壁 4、5 に当接し荷重を受けるための下向き突出部 14、14 が設けられている。

更に、ケース体 7 の前側の左右の凹部 10、10 の下面側に、内部筐体 2 の左右側壁に当接する下向き補強リブ 15、15 が設けられている。

また、下向き突出部 14、14 は、左右方向に延びる長円形状に形成され、一端部 14a が楕円形状に形成されて凹部 9、9 の下側に位置し、他端部 14b が内部筐体 2 の角側壁 4、5 の上側に位置している。

【0012】

そして、テレビジョンの脚部はケース体 7 の上壁 8 の前後 4 箇所の略球面状の凹部 9、10 に入り込み、このテレビジョンの重量は、ケース体 7 の上壁 8 の下向き突出部 14、14 が内部筐体 2 の左右側壁 4、5 に当接するとともに下向き補強リブ 15、15 が内部筐体 2 の左右側壁 4、5 に当接することによって、支えられ、更に、左右の補強体 11、12 によってテレビジョンの重量が受けられて頑丈な構造となっている。

【0013】

したがって、この実施形態によれば、テレビジョンの載置することを前提とした DVD セットを作ることができ、しかもテレビジョンを安定した状態で載置することができるとともに、テレビジョンの重量を無理なく受けることができる頑丈な構造にすることができる。

【0014】

【考案の効果】

以上説明したように、請求項 1 に記載の考案は、プレーヤー本体が内部に内蔵された内部筐体がシールド板を兼ねた鉄板で形成され、この内部筐体は、上面板と左右側壁と後壁とからなって前部が開放されていて、この内部筐体は前部が開放されたケース体で覆われていて、このケース体にはテレビジョンの脚部を載せ

る凹部が前後4箇所設けられ、内部筐体の前部の両側におけるケース体の内側に、上端がケース体の上壁近傍箇所に位置して上端が塞がれた角柱形状の左右2本の補強体が立設され、左右の補強体には、ケース体の前部に取り付けられるフロントキャビネットに係入するキャビネット係入取付片がそれぞれ前向きに突設され、ケース体の後側の左右の凹部の下面側には、内部筐体の上面板と左右側壁に当接して荷重を受けるための下向き突出部が設けられているので、以下に述べる効果を奏する。

【0015】

即ち、テレビジョンの脚部はケース体の上壁の前後4箇所の略球面状の凹部に入り込み、このテレビジョンの重量は、ケース体の上壁の下向き突出部が内部筐体の左右側壁に当接するとともに下向き補強リブが内部筐体の左右側壁に当接することによって支えられ、更に、左右の補強体によってテレビジョンの重量が受けられて頑丈な構造となっているので、テレビジョンの載置することを前提としたDVDセットを作ることができ、しかもテレビジョンを安定した状態で載置することができるとともに、テレビジョンの重量を無理なく受けることができる頑丈な構造にすることができる。

【0016】

請求項2に記載の考案は、プレーヤー本体が内部に内蔵された内部筐体がシールド板を兼ねた鉄板で形成され、この内部筐体は、上面板と左右側壁と後壁とからなっており前部が開放されていて、この内部筐体は前部が開放されたケース体で覆われていて、このケース体にはテレビジョンの脚部を載せる凹部が前後4箇所設けられ、内部筐体の前部の両側におけるケース体の内側に左右2本の補強体が立設され、ケース体の後側の左右の凹部の下面側には、内部筐体の上面板と左右側壁に当接して荷重を受けるための下向き突出部が設けられているので、以下に述べる効果を奏する。

【0017】

即ち、テレビジョンの脚部はケース体の上壁の前後4箇所の略球面状の凹部に入り込み、このテレビジョンの重量は、ケース体の上壁の下向き突出部が内部筐体の左右側壁に当接することによって支えられ、更に、左右の補強体によってテ

テレビジョンの重量が受けられて頑丈な構造となっているので、テレビジョンの載置することを前提としたDVDセットを作ることができ、しかもテレビジョンを安定した状態で載置することができるとともに、テレビジョンの重量を無理なく受けることができる頑丈な構造にすることができる。

【0018】

請求項3に記載の考案は、ケース体の前側の左右の凹部の下面側に、内部筐体の左右側壁に当接する下向き補強リブが設けられているので、この下向き補強リブによっても、テレビジョンの重量を受けることができ、テレビジョンをより一層安定した状態で載置することができる。

【0019】

請求項4に記載の考案は、下向き突出部は、左右方向に延びる長円形状に形成され、一端部が楕円形状に形成されて凹部の下側に位置し、他端部が内部筐体の各側壁の上側に位置しているので、凹部に入り込んだテレビジョンの脚部にかかる重量をこの下向き突出部で分散して受けることができ、他端部が内部筐体の各側壁に当接することにより、テレビジョンの重量でケース体が部分的に凹むことを防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】**【図1】**

本実施形態のDVDプレーヤー装置を示し、(a)はその平面図、(b)はその正面図である。

【図2】

同装置の側面図である。

【図3】

従来のVTR収納用のテレビジョン受像機一体型キャビネットを示す部分斜視図である。

【図4】

同キャビネットにおけるVTR収納時の斜視図である。

【図5】

従来の筐体装置を示す斜視図である。

【図 6】

同装置に用いられる枠体の斜視図である。

【図 7】

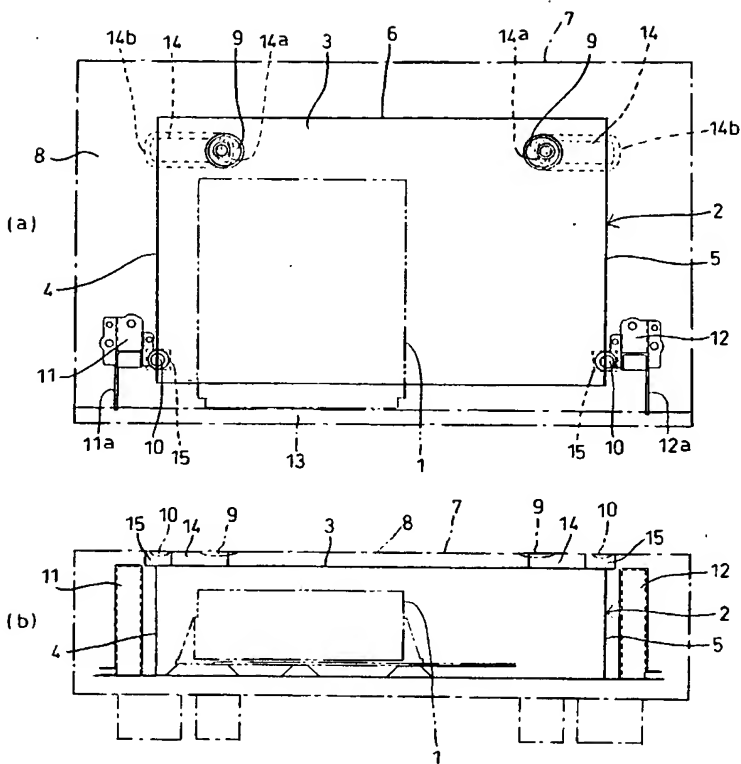
同装置の内部構造を示し（a）はその側面断面図、（b）はその平面断面図である。

【符号の説明】

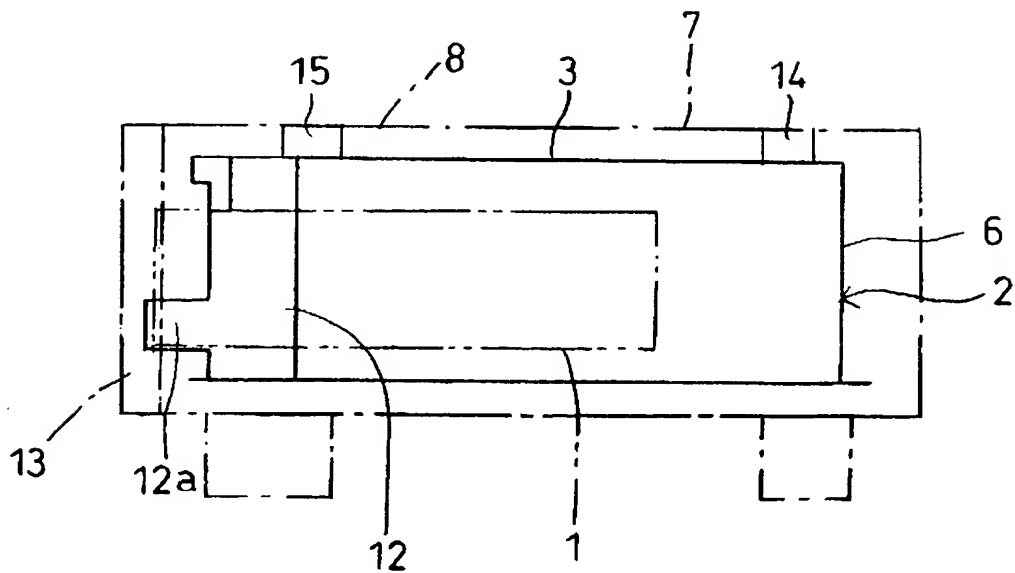
- | | |
|---------|-------------|
| 1 | プレーヤー本体 |
| 2 | 内部筐体 |
| 3 | 上面板 |
| 4、5 | 左右側壁 |
| 6 | 後壁 |
| 7 | ケース体 |
| 8 | 上壁 |
| 9、10 | 略球面状の凹部 |
| 11、12 | 補強体 |
| 11a、12a | キャビネット係入取付片 |
| 13 | フロントキャビネット |
| 14 | 下向き突出部 |
| 14a | 一端部 |
| 14b | 他端部 |
| 15 | 下向き補強リブ |

【書類名】 図面

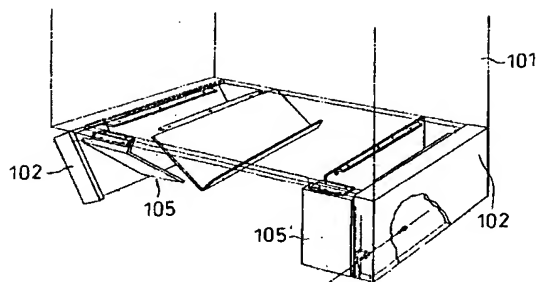
【図1】



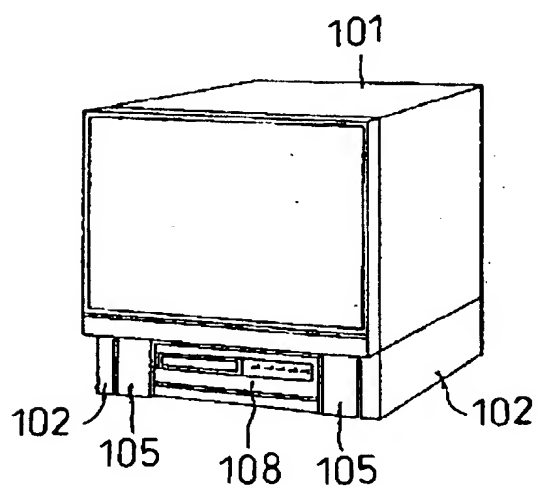
【図2】



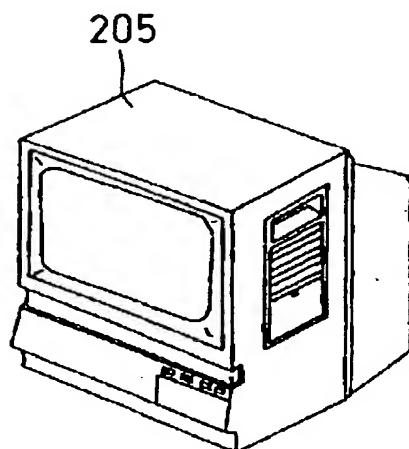
【図 3】



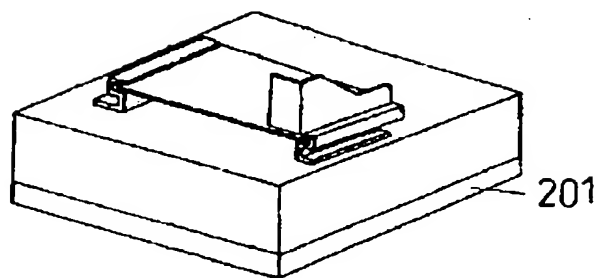
【図 4】



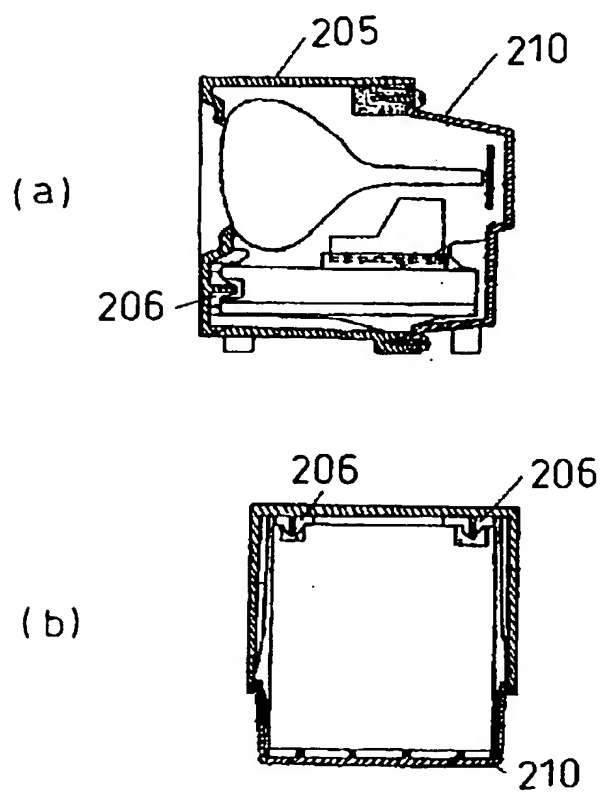
【図 5】



【図 6】



【図 7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 テレビジョンを安定した状態で載置することができるとともに、テレビジョンの重量を無理なく受けることができる頑丈な構造にすることができる。

【解決手段】 プレーヤー本体 1 を内部に内蔵した内部筐体 2 をシールド板を兼ねた鉄板で形成し、内部筐体は上面板 3 と左右側壁 4、5 と後壁 6 とからなって前部が開放して内部筐体は前部が開放したケース体 7 で覆われ、ケース体にテレビジョンの脚部を載せる凹部 9、10 を前後 4 箇所 to 設け内部筐体の前部の両側のケース体の内側に上端がケース体の上壁近傍箇所に位置して上端が塞がれた角柱形状の左右 2 本の補強体 11、12 を立設し左右の補強体にケース体の前部に取り付けられるフロントキャビネット 13 に係入するキャビネット係入取付片 11a、12a を前向きに突設しケース体の後側の左右の凹部の下面側に内部筐体の上面板と左右側壁に当接して荷重を受ける下向き突出部 14 を設ける。

【選択図】 図 1 (a) (b)

認定・付加情報

実用新案登録出願の番号	実願 2003-001071
受付番号	50300347243
書類名	実用新案登録願
担当官	第九担当上席 0098
作成日	平成15年 3月19日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成15年 3月 4日
-------	-------------

次頁無

実願 2 0 0 3 - 0 0 1 0 7 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 2 0 1 1 1 3]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 9 日
[変更理由]	新規登録
住 所	大阪府大東市中垣内 7 丁目 7 番 1 号
氏 名	船井電機株式会社